

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【宮崎県日南市】

実施報告書
(概要版)

実施概要

宮崎県日南市について

日南市は、人口約55,000人、宮崎県の南部に位置し、東に日向灘を臨み、西は都城市・三股町、南は串間市、北は宮崎市に隣接しています。宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る延長112kmは全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園の指定を受けています。

面積の約8割が山林等で、気象は平均気温が18.7度と太陽と海、みどりの山々に象徴されるように温暖多照の気候条件で日本で最も日照に恵まれた地域の一つです。特に冬季の日照時間は大変長く、冬型気圧配置で山沿いが曇っていても平野部は晴れている場合が多くなります。

一方で鰐塚(わにつか)山系を含む本市は、多雨地域で、四国の太平洋岸、紀伊半島の東部とともに日本の最多雨地帯となっています。



参照: 日南市ホームページ

訓練概要

■訓練想定: 11月6日の平日午前、南海トラフを震源とするM8.0の大規模地震が発生し、日南市内では震度6強を記録。発生直後より、津波警報が発表され、日南市は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■日 時: 平成26年11月6日(木) 9:30~12:10

	宮浦区	鵜戸区
シェイクアウト訓練	09:30~09:35	10:00~10:05
情報伝達訓練	09:30~10:00	10:00~10:40
津波避難訓練	09:35~10:10	10:05~10:40
物資補給・負傷者救出訓練	10:10~11:30	10:40~12:10

■実施体制: 主催/内閣府
共催/宮崎県、日南市

■参加者: 約300名

宮浦区自治会、鵜戸区自治会、鵜戸小中学校、宮浦保育所、鵜戸神宮、日南市サーフィン連盟、日南警察署、日南市消防本部、宮崎海上保安部、陸上自衛隊第43普通科連隊

訓練報告

当日の訓練内容

09:30～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼鵜戸小中学校



▼宮浦保育所



09:30～ 情報伝達訓練

サーフィン授業中の鵜戸中学校の生徒に対して、オレンジフラッグによる学校校舎及び海岸からの情報の伝達を行った。

▼オレンジフラッグによる情報伝達



09:35～ 津波避難訓練

海岸で授業中の中学生や漁港付近の自宅にいた住民が津波緊急避難場所に指定されている高台に避難を実施した。

▼海岸からの避難



▼高台への避難



▼避難した保育園児



10:10～ 物資補給・負傷者救出訓練

鵜戸神宮第2駐車場に避難した住民に対して、宮崎県防災ヘリによる支援物資の補給訓練を実施。また、鵜戸小学校の屋上からヘリによる負傷者救出訓練を実施した。

▼物資補給訓練



▼負傷者救出訓練



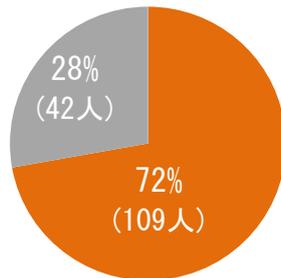
今後に向けた課題

アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

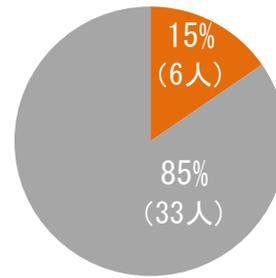
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

▼住民(小学生・保育園児除く)(151人)



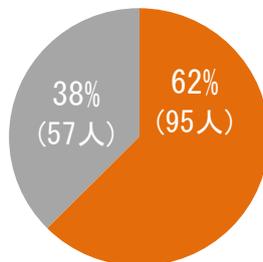
■①知っている
■②知らない

▼小学生・保育園児(39人)



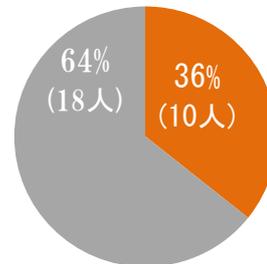
問 地震等に備えて、食料、水、非常用持出し袋等を準備していますか？

▼住民(小学生除く)(152人)



■①している
■②していない

▼小学生(28人)



訓練の評価・課題等

訓練当日は雨模様の中、小学校の児童や地域の住民等を合わせて約300名が参加し、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んでいた。

訓練実施後、市長による講評、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう、「課題と対策案」として整理した。この結果、スムーズな安全行動をとり、避難行動が迅速、適切に行われていたという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- シェイクアウト訓練においてサーフィン授業中の生徒が落下物の危険性はない海辺で頭を守る必要はなく、災害発生場所ごとにとるべき行動の検討が必要
- 自治会長が避難誘導のため、参加者全員の避難終了後にかなり遅れて避難場所に到着していたが、実際の避難の際に同様の対応をとるべきかの検討が必要。